

令和4年度の学校評価

1. 重点目標等

	<p>令和4年度の重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 新しい学習指導要領に則った授業と評価の実施</li> <li>2 スクール・ポリシーを踏まえた教育活動の具体的な実施</li> <li>3 自他ともに大切にす生徒の育成のために教育相談的な視点に立った指導の実施</li> <li>4 生徒用タブレット等のICT機器を活用した教育活動の本格的な実施</li> <li>5 コロナ禍で影響を受けた学校行事等の再構築</li> <li>6 学校の規定等が時代や社会情勢の変化に対応したものであるかの検証と見直し</li> <li>7 地域との協力体制の強化と学校の諸活動に関する積極的な情報発信</li> <li>8 令和5年度入学者選抜の円滑な実施に向けての準備</li> <li>9 多忙化の解消に向けた業務内容の点検・精選と効率化</li> </ol>	
<p>項目</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>留意事項</p>
<p>新学習指導要領の実施</p>	<p>新しい学習指導要領に則った授業と評価の実施</p>	<p>ア 各教科において新指導要領に則った指導計画の立案をし、授業を実施していく。 イ 評価の観点を適切に設定し、計画的に評価に向けた準備を行う。 ウ 学期末、学年末における評価を適正に実施する。</p>	<p>ア 指導要領の解説等を参考に適切に計画を行う。 イ 新指導要領を理解し評価に向けた諸活動の位置づけを明確化する。 ウ 学期末、年度末の評価の根拠を明確化し、外部に説明できるものとする。</p>
<p>スクール・ポリシーの具体化</p>	<p>スクール・ポリシーを踏まえた教育活動の具体的な実施</p>	<p>ア スクール・ポリシーのうち「(1)目指す生徒像」「(2)本校における学び」については、各学科、教科、学年、分掌等に関係する箇所を確認の上、具体化させる。 イ 地域連携に関する事項については「総合的な探究の時間」における新たな扱いを検討し、令和5年度からの実施に向けた準備を行う。 ウ スクール・ポリシーの「(3)入学を期待する生徒像」を地域の中학생等に周知する。またホームページや印刷物等で周知する。</p>	<p>ア 教育活動全体でスクール・ポリシーの具体的な実施に向けて共通理解を図る。 イ 地域の行政その他の諸団体・組織との協力を図る。 ウ 中高連絡会や、管理職・主任による中学校訪問においてスクール・ポリシーについて丁寧に説明し、理解を得る。</p>
<p>自他ともに大切にす生徒育成のための教育相談的な指導</p>	<p>自他ともに大切にす生徒の育成のために教育相談的な視点に立った指導の実施</p>	<p>ア 生徒に対して自他の命や心身の健康の大切さを考え、理解させる機会を設定する。 イ 生徒の問題行動に対して表面的な指導にとどまらず、背景についても理解するよう努め、より効果的なものとする。 ウ 生徒指導部と教育相談の一層の連携を図り、対応を進める。</p>	<p>ア 生活実態アンケートについては、実施後、速やかな確認と対応を行う。 イ 生徒指導における情報収集に際して、本人だけでなく家族や友人などの関係者からの収集も丁寧に行う。 ウ 必要に応じてスクール・カウンセラーや外部機関の活用や連携を図る。</p>
<p>生徒用タブレット等のICT機器の本格的活用</p>	<p>生徒用タブレット等のICT機器を活用した教育活動の本格的な実施</p>	<p>ア 教員の個人単位での活用にとどまらず、各教科や学年で組織的に活用する。 イ 中長期的な視点で効果や課題などを共有し、改善につなげる。 ウ 活用方法、操作方法を教員が学ぶ研修その他の機会を設定する。</p>	<p>ア 他校の実践発表等の情報を積極的に学び、実践につなげる。 ロイロノートやスタディ・サプリ等のアプリやツールをこれまで以上に積極的、組織的に活用する。 イ 失敗や不具合の発生を恐れず、不具合や問題点を把握し、改善を図る。 ウ 教育的効果と利便性や省力化の両立を図る。</p>
<p>コロナ禍で影響を受けた学校行事等の再構築</p>	<p>コロナ禍で影響を受けた学校行事等の再構築</p>	<p>ア 過去の臨時的な対応の継続ではなく、効果的で継続性のあるものにする。 イ 行事の場所・実施時期・時間・準備等総合的に検討をする。</p>	<p>ア 各行事の教育的意義や目的を踏まえ、魅力ある行事にするよう工夫する。 イ 魅力ある行事と健康・安全面を両立させる。</p>
<p>時代や社会情勢に対応した学校の諸規定の検証と見直し</p>	<p>学校の規定等が時代や社会情勢の変化に対応したものであるかの検証と見直し</p>	<p>ア いわゆる「校則問題」への対応について継続的に検討を進める。 イ 教務部、進路指導部を中心とした各種規定について、その課題を検証し、必要に応じて見直しを行う。 ウ 制服検討委員会において制服の改定に向けた話し合い・検討を進める。</p>	<p>ア～ウ 学校教育における必要性和社会的、時代的な状況とのバランスを取るようとする。 ウ 本年度中に決定できるよう計画的に進めていく。</p>

地域との協力の強化と情報発信	地域との協力体制の強化と学校の諸活動に関する積極的な情報発信	<p>ア 「総合的な探究の時間」において地域連携に関する内容を取り入れ、令和5年度以降の実施に備える。</p> <p>イ 実施や案内を行うタイミング、ホームページや学校案内等の印刷物の内容、デザイン、掲載や配布する時期について生徒募集につながるよう計画、実施する。</p> <p>ウ 行事や部活動など生徒の活躍する写真や動画の資料を積極的に作成・収集し活用する。生徒の活躍について報道等への情報提供を積極的に行う。</p>	<p>ア 外部の団体や組織との連携に際しては内容を早期に検討し、連携先との協議を進める。</p> <p>イ 体験入学や公開授業など案内・募集配布依頼を伴うものについては相手先の時間確保や負担軽減を考えて準備を行う。</p> <p>ウ 個人情報の取り扱いに際しては管理や承諾を適切に行う。報道等への情報提供や取材に際しては事前に管理職へ相談し、承認を受ける。</p>
令和5年度入学選抜実施に向けた準備	令和5年度入学選抜の円滑な実施に向けての準備	<p>ア 選抜のあり方、内容、運営について、課題点を洗い出し、職員の共通理解を図る。</p> <p>イ 特別選抜の実施に向けて、準備を進める。</p>	<p>ア 要項が全面改定となることを想定し、早めに準備を行う。</p> <p>イ 「総合的な探究の時間」の手直しを行う。</p>
教員の多忙化解消	多忙化の解消に向けた業務内容の点検・精選と効率化	<p>ア 各分掌等が所管する業務内容の見直しを行い、可能な限りスリム化・マニュアル化を進める。</p>	<p>ア 見直しによる教育的効果・価値の低下が起きないように留意する。</p> <p>イ 勤務時間の適正化を図る。</p>
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 新学習指導要領の実施</li> <li>2 スクール・ポリシーの具体化</li> <li>3 自他ともに大切にする生徒育成のための教育相談的な指導</li> <li>4 生徒用タブレット等のICT機器の本格的活用</li> <li>5 コロナ禍で影響を受けた学校行事等の再構築</li> <li>6 時代や社会情勢に対応した学校の諸規定の検証と見直し</li> <li>7 地域との協力の強化と情報発信</li> <li>8 令和5年度入学選抜実施に向けた準備</li> <li>9 教員の多忙化解消</li> </ol>	

## 2 前年度の学校評価

### (1) 自己評価結果等

令和3年度の重点目標		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 主体的、対話的で深い学びを実践し、学びの基礎力を定着させて生徒の意欲を喚起する。キャリア教育プログラムとあわせ、よりよい人生を選択、開拓する力を育成する。</li> <li>2 豊かな人間性の獲得を目指し、学校生活のあらゆる機会を通して、自らと他者の尊厳を大切に、高度な社会性を育む教育活動を展開する。</li> <li>3 より積極的かつ組織的に情報を発信することにより、中学校やその保護者、地域の人々をはじめとする本校への県民ニーズに応える。</li> <li>4 全ての教員がICTを活用できるように研修システムを整える。</li> <li>5 業務の効率化により多忙化解消を図り、風通しよく働きやすい職場をつくる。</li> </ol>	
項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
主体的、対話的で深い学びの実践 基礎力養成	主体的、対話的で深い学びを実践し、学びの基礎力を定着させて生徒の意欲を喚起する。	<p>ア 対話的な授業展開を推進し、多様な見方・考え方のことに気づかせ、異なる意見を互いに尊重する態度を定着させる。</p> <p>イ 評価の観点と教科・科目の目標を明確にし、生徒の意欲向上を図る。</p> <p>ウ 丁寧な学習指導により、基礎的・基本的な学びの力を育成する。</p> <p>エ 生徒自らの学習計画に従い、主体的な学習に取り組む態度を育成する。</p>	<p>ア 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、グループ学習の推進が難しい1年であった。意見交換の手段については、ICT機器の活用により、充実したものにできると思われるため、効果的な利用方法を研究したい。</p> <p>イ 一部の教科であるが、観点を意識したテストの作成などを行っている。来年度の入学生より、本格的に観点別評価が導入される。授業改善のPDCAサイクルに取り込むなど、一層の充実を図りたい。</p> <p>ウ 小テストや日々の課題などを企画し、基礎・基本を重視した学力の育成に取り組んだ。各教員が様々な工夫しており、その方法など取組事例を共有したい。</p> <p>エ 「今未来手帳」を利用し、主体的に取り組む態度の育成に努めた。考査に向けた学習計画や反省を行いながら、週末課題等も計画的に取り組むよう指導した。また、定期考査において、生徒が負担にならず効果的な時間割を作成するように配慮した。</p>

<p>キャリア教育の推進</p>	<p>キャリア教育プログラムとあわせ、よりよい人生を選択、開拓する力を育成する。</p>	<p>オ 主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた研究授業を充実する。</p> <p>カ 「総合的な探究の時間」が有効的なキャリア教育と結びつくよう、内容の改善・研究に取り組む。</p> <p>キ オープンキャンパスやインターシップへの積極的参加を促す。</p> <p>ク 各種進路ガイダンス等の年間指導計画に沿ったキャリア教育を実践する。</p> <p>ケ 個人面談を通して進路意識を向上させる。</p>	<p>オ 各教科において取組が実践されている。今後もさらに充実させていきたい。</p> <p>カ 将来を見据えた進路選択ができるよう、年間を通した学習計画を作成した。学期ごとにテーマを設け、講演やグループ学習を通して、有効なキャリア教育が実施できた。また、類型進路説明会など、自己の在り方生き方を探究する機会を、適切に設定することができた。各種体験活動の事前事後ではグループワーク等を通じ、コミュニケーション力・調整力を養うことができた。</p> <p>キ インターンシップには延べ67名の生徒が参加し、体験的な学習を実施することができた。オープンキャンパス参加はある程度促したが、コロナ禍における代替として「夢ナビプログラム」や「スタディーサプリ」を活用した。</p> <p>ク 各学年とも進路ガイダンス、類型説明会等において、外部講師を招いた講演会を実施するなど計画的なガイダンスを行うことができた。</p> <p>ケ 面接週間を利用して、計画的に面談を行うことで、進路意識を向上させるとともに、充実したキャリア教育を行うことができた。また、面接週間だけでなく、日々の学校生活の中で、こまめに生徒の様子の変化に対応した面談をすることを心掛けた。</p>
<p>豊かな人間性を育む</p>	<p>基本的な生活習慣の確立と、学校行事、部活動、清掃活動、読書活動等とおして、読解力やコミュニケーション能力を高める。</p>	<p>ア 生徒主体の学校行事運営、部活動運営を行う。</p> <p>イ 中学校や地域と部活動での連携を行う。</p> <p>ウ 清掃活動を充実する。</p> <p>エ あらゆる教科指導の中で、読書に向かうきっかけを与える。</p>	<p>ア 生徒会執行部を中心に、生徒の意見を取り入れ、掲示・ポスター・呼びかけを工夫しながら、常に生徒が主体となって、学校行事に参加できるようにした。</p> <p>イ コロナ禍により、中学校との交流試合は今年度は行われなかった。</p> <p>ウ 清掃物品の在庫管理を徹底し、意欲の向上を図った。</p> <p>エ それぞれの特性に応じて、多くの教科で行うことができた。</p>
<p>開かれた学校づくり</p>	<p>開かれた学校づくりをおして本校への県民ニーズに対応する。</p>	<p>ア 広報活動を充実する。(HP、リーフレット、碧高ニュース)</p> <p>イ 学校と連携したPTA活動を実施する。</p> <p>ウ Kプロジェクトの継続実施。</p>	<p>ア リーフレット、碧高ニュースの発行を迅速に行い、HPの更新も学校行事等があれば迅速に更新することができた。</p> <p>イ コロナ禍において、感染状況を考慮して、実行できる範囲でハンギングバスケットや半日研修会など実施することができた。</p> <p>ウ あおいパーククリスマスイベントを実施し、Kプロジェクトを本年度は2年ぶりに行うことができた。</p>
<p>ICT活用</p>	<p>全職員がICTを活用して教育活動、校務を効果的に進められるようにする。</p>	<p>ア 仕組みから応用まで、職員各自の能力に応じて研修が受けられるようにする。</p>	<p>ア ロイロノートの使用方法について校内研修を実施することができた。県主催のYouTubeによるICT活用講座や、ICTを活用した研究指定校の授業公開案内を積極的に行い、参加してもらうとともに、全県の合同発表会の資料を全職員に公開した。</p>
<p>多忙化解消及び不祥事防止</p>	<p>多忙化解消を進める。不祥事を防止する。</p>	<p>ア 情報共有と協働によって効率化を図り、業務のスリム化を検討する。</p> <p>イ 折に触れて研修を行い、不祥事のない教育活動を行う。</p>	<p>ア 校内の清掃美化で円滑な人間関係の構築には寄与できたが、業務そのものスリム化は叶わなかった。安全衛生委員会の活動には強制力がないが、粘り強く取り組んでいきたい。</p> <p>イ 新聞等で報道のあるごとに注意喚起を行った。また、職員会議内で不祥事防止の研修を実施した。</p>

学校関係者評価を実施する主な評価項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 主体的、対話的で深い学びの実践、基礎力養成、キャリア教育の推進</li> <li>2 豊かな人間性を育む</li> <li>3 開かれた学校づくり</li> <li>4 ICT活用</li> <li>5 多忙化解消及び不祥事防止</li> </ol>
本年度の重点目標についての自己評価	<p>1・基礎力の定着に向けて、各教科担当が工夫した授業実践を行っている。教員間で取組みに差があることから、授業改善に向けた情報交換等を行う機会を設けたい。</p> <p>・総合的な探究の時間を要にして、自己の在り方・生き方について考えさせることができた。</p> <p>2・本年度も部活動や学校祭・球技大会等の学校行事は新型コロナの影響を受け制限・縮小を余儀なくされた。そのような中、生徒主体によりプログラム変更や感染防止対策を行うことができていた。</p> <p>3・紙媒体やデジタルによる情報発信は即時的に行っているが、保護者を迎え入れての各種活動は控えざるを得なかった。状況が許すようになれば再開していきたい。</p> <p>・総合ビジネス科のKプロジェクト・出前授業等の外部との連携活動は前年度より活発に行うことができた。</p> <p>4・ICT活用に関する全体研修や個別の研修参加をすすめ、知識・技能が漸進している。</p> <p>5・業務の精選を行い効果的な業務の選別を進めた。職員には早期退職を促し、多忙感の解消に努めることができた。次年度以降も継続していかねばならない。</p> <p>・県立高校職員の不祥事案の発生については、できる限り詳細を周知し自分事としてとらえるような啓発を行った。不祥事撲滅に向け継続していきたい。</p>

## (2) 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 主体的、対話的で深い学びの実践、基礎力養成、キャリア教育等の推進</li> <li>2 豊かな人間性を育む</li> <li>3 開かれた学校づくり</li> <li>4 ICT活用</li> <li>5 多忙化解消及び不祥事防止</li> </ol>
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職・進学とも対応できる学校と認識している。また、碧高は地域との結びつきを大切にしてくれている学校である。</li> <li>・コロナ禍にあって様々な制約があると承知している。以前行われていたような駅のトイレ清掃のようなボランティア活動など、地域への貢献が期待されている。</li> <li>・総合ビジネス科による中学校出前講座は中学生にも好評である。</li> <li>・生徒の欠席連絡をアプリに切り替えたのはよい取り組みである。</li> <li>・働き方改革をさらに進め、多忙化解消をさらに推し進めることが期待される。</li> </ul>
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合ビジネス科で、企業の経営計画などの講座を開いてはどうか。例えば碧南高校の経営計画などを考えさせても面白い。身近な部分で考えさせる機会を設けることは大切だ。</li> <li>・インターンシップは受け入れる企業にとっても、自らを見直す良い機会。期間がもう少し長く、例えば1週間程度あれば教えられることももっと増やせる。</li> <li>・中学校から送られてくるキャリアパスポートを、さらに活用するとよい。</li> </ul>
その他、学校関係者から出された意見、要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・碧南高校と市役所との間にある横断歩道で、下校が集中する場合に渋滞を引き起こすことがある。可能であれば指導してもらいたい。</li> <li>・地域の人々とのつながり、特に社会人との交流を持つ機会を増やしてもらいたい。</li> <li>・継続してよい人材を地元企業に送ってほしい。</li> </ul>
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 構成…学校評議員5人</li> <li>2 評価時期…令和4年2月</li> </ol>